

博士学位論文 内容の要旨および審査結果の要旨

氏名（本籍）	オマルペ・ソマナンダ（スリランカ） Omalpe Somananda Thero
学位の種類	博士（社会福祉学）
学位記番号	博福乙第3号
学位授与年月日	令和4年3月15日
学位授与の要件	淑徳大学学位規程第3条第5項
学位論文題目	An Analytical Study on Applicability of Teachings in Buddhism for the Development of Buddhist Social Work Education 仏教ソーシャルワーク教育開発のための仏教教義の適用 可能性に関する分析調査
審査委員	委員長 教授 結城 康博 委員 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所 顧問 田宮 仁 委員 講師 長谷川 奏 委員 ケラニヤ大学教授 ラルヴェ・パッドマシリ・テーロ Raluwe Padmasiri Thero

## 【論文内容の要旨】

### **Thesis Summary**

Sri Lanka is a Buddhist country. Its social culture encourages philanthropy based on Buddhist values inculcated in the philosophical background of Buddhism. The literature review revealed that professional social work did not fit in with the socio-economic culture of Sri Lanka and therefore, social work scholars have commented on the need for a new social work approach appropriate for Sri Lanka. The title of this thesis is “An analytical study on applicability of teaching in Buddhism for the development of Buddhist social work education”. This study explores the content of the Buddha's teachings on Social Work and uses the Sutta Pitaka for this objective. The author's intention is to study the Sutta Pitaka to identify the teachings that are similar to professional social work. Therefore, the present research hypothesizes that in Sutta Pitaka, teachings similar to the global definition of social work profession which better suits the Sri Lankan society can be identified.

The question “What are the available Buddhist teachings in Sutta Pitaka reflecting social work?” arises as the entry point in this exploration. It posed a challenge in finding the correct answer to the research question in this study. A qualitative approach was used for this study incorporating the content analysis tool. Content analysis is a research tool used to determine the presence of certain words, themes, contents, or concepts within some given qualitative data. Despite the fact that there is no limit to Buddha's teachings, the scope of this study should be limited to a certain area.

In this study, data were collected based on five themes to identify the concepts relevant to the social work from the Sutta Pitaka and it included, (1) Social philosophy reflection to Buddhism, (2) Buddhist teachings related to concepts of social work, (3) Social work methods revealed in Buddhism, (4) Social work techniques revealed in Buddhism, (5) Social work qualities revealed through the Buddha's character. For this, 11882 Suttas pertaining to the 5 Pitakas (all together 19 volumes) of the Sutta Pitaka were analyzed based on the themes and sub-themes. It was identified that 530 Suttas could be applied to social work. It was again necessary to remove 83 Suttas from the

analysis according to the guidelines of content analysis tool. Hence, 447 Suttas were finally identified to be referring social work. They were grouped and analyzed under new themes and sub-themes, focusing on their contents and concepts. Under the five main themes, the numbers of Suttas have been adapted to those themes as follows. They are 1<sup>st</sup> theme 112, 2<sup>nd</sup> theme 131, 3<sup>rd</sup> theme 23, 4<sup>th</sup> theme 92, and 5<sup>th</sup> theme 89. Hence, 447 Suttas' contents were identified as being similar to professional social work. Professional social work consists of theoretical and practical aspects. However, the Buddhist teachings identified by the author include only theoretical aspects. They are aligned with key areas of philosophical foundation, theoretical teaching, methods, concepts, values and ethics, skills, and qualities of professional social work. Further, the relevant contents (teachings) can easily be transformed into the practical aspects of social work. However, some of the Buddhist teachings which were identified from Sutta Pitaka do not fit in with the present situation, because, some of the examples used by the Buddha are relevant to the social context of Buddha's time an Indian situation. For example, some views about women, classification of person.

As the result of this study, it is possible to formulate policies based on Buddhist values and ethics to the progress of social work education in Sri Lanka and the social welfare of the people. Policy recommendations are divided into two main sections, such as (1) Government agencies (2) Non-governmental agencies. Government policies should gradually align with the needs of the rural level. It states that proposals and ideas should go from the village level to the authorities in decision-making for government policies, and they should include health, education, welfare settings, economics, political concern, and judicial service. The significance of this study is for the development of professional social work education in Sri Lanka and for the development of Buddhist education of Buddhist monks. In the end, the conclusive results clearly revealed that ample amount of Sutta Pitaka-based Buddhist teachings that eliminate the above incompatibility between the social work currently available in Sri Lanka and the Buddhist philosophical basis on them is available to change the professional social work education and application scenario in Sri Lanka.

**Key words:** Buddhist Social work, Social work-Sri Lanka, Social work education, Sutta Pitaka

## 【論文審査の要旨】

オマルペ・ソマナンダ師（スリランカ）の博士学位請求論文の審査要旨は、以下の通りである。

### 1. 審査委員会の評価基準

本審査委員会では、社会福祉学専攻博士後期課程学位論文（博士）評価基準に基づき、以下の15基準を評価基準とした。

- ①大学院要項の「博士学位請求論文の提出書類の書式等についての内規」に適合しているか。
- ②先行研究を的確（量や質、批判的考察）に捉えているか。
- ③問題・目的の設定が明確であり適切であるか。
- ④専門領域に照らして研究の意義が明確であるか。
- ⑤研究目的に照らして、研究方法ならびにデータ収集、分析方法が正確かつ適切か。
- ⑥学術上の創意工夫がなされているか。
- ⑦論理の展開に一貫性があり、論文中の議論は説得力があるか。
- ⑧設定した研究課題の解明が的確・適切になされているか。
- ⑨研究結果が明確に述べられていて、結果に対する考察が的確であるか。
- ⑩考察及び結論には新しい知見が含まれておりオリジナリティがあるか。
- ⑪今後の課題が検討されているか。
- ⑫研究倫理上の配慮がなされており問題はないか。
- ⑬引用文献や参考資料は正確かつ適切か。
- ⑭関連領域の学術誌・紀要等に研究論文として掲載されるレベルであるか。
- ⑮学会において一定の評価が得られるものであり、かつ社会福祉学に貢献できるものであるか。

本審査委員会は、以上の評価基準を総合的に踏まえて、申請者が①から⑮の課題をクリアしているか否かについて審査した。なお、論文審査では、これら15の課題のうち、②～⑪までの課題について検討した。また、①については予備審査において検討を行い、更に、残りの⑫～⑮の課題については、論文審査及び口述試問の結果をもとに最終的な判断を行った。

### 2. 評価と批評

以下、最終的な論文の評価について述べる。

①大学院要項の「博士学位論文の提出書類の書式等についての内規」に適合しているか。書式は、大学院要項に記載された内規に適合していた。

②～⑪に関しては、3名の内部審査委員及び1名の外部審査委員の4名に論文審査を依頼し、次に示すA Eの5つの項目について評価を行なった。

A 具体性：研究目的に適った、明瞭なテーマ（研究仮説）が設定できているか。

この項目は、評価基準の③に相当する。審査の結果、審査者4名全員が「適切」と判断

した。

B 独自性：先行研究を吟味して自身の研究の独自性が検証されているか。

この項目は、評価基準の⑥及び⑩に相当する。審査の結果、審査者4名全員が「適切」と判断した。

C 研究水準：先行研究や実践の成果と課題を考察し、自身の研究の位置づけを説明できるか。この項目は、評価基準の②及び④⑬に相当する。審査の結果、審査者4名全員が「適切」と判断した。

D. 研究方法：テーマや目的に 適した研究方法によって分析できているか。

この項目は、評価基準の⑤及び⑧⑫に相当する。審査の結果、審査者4名全員が「適切」と判断した。

E 研究の到達度：研究結果が論理的に説明され、有効性・限界性が説明されているか。

この項目は、評価基準の⑦⑨及び⑪⑭⑮に相当する。審査の結果、審査者4名全員が「適切」と判断した。

これら A～E の 5 項目について審査を行なった結果、それぞれの項目について審査者 4 名全員が「適切」と判断した。また、総合的な審査結果についても 4 名全員が「合」と判定した。以上のように今回実施した A～E の審査項目に基づく結果から、学位請求論文として十分な水準に達していると判断する。

⑫研究倫理上の配慮がなされており問題はないか。

論文審査及び口述試問より、タマサート大学の倫理審査においても承認を受けており、また、質問紙について英語・タイ語間でのバックトランスレーションも適切に行なわれており、「適切」と判断した。

⑬引用文献や参考資料は正確かつ適切か。

論文審査及び口述試問より、広範囲且つ充実した文献の引用がなされていることが確認された。また、記載方法についても APA スタンドに準っており、問題はなかった。よって、「適切」と判断した。

⑭関連領域の学術誌・紀要等に研究論文として掲載されるレベルであるか。

今後、スリランカ語での出版も予定しており、「適切」と判断した。

⑮学会において一定の評価が得られるものであり、かつ社会福祉学に貢献できるものであるか。

今後、スリランカ語での出版も予定しており、「適切」と判断した。

以上、今回、実施した論文審査及び口述試問の審査結果から、①～⑮の全ての項目について「適切」であり、また、総合的な審査結果も「合」であったことから、学位請求論文として十分な水準に達しており、かつ十分な学力を有していると判断する。

### 3. 審査委員からの審査報告

次に以下、審査委員からの審査報告の一部を紹介する。

本論文については、ソーシャルワークの視点からソーシャルワーク教育に活用できる仏

典表記の有無を、膨大な上座部仏教経典を渉猟網羅して、その表記の事実を材料として「仏教ソーシャルワーク教育開発のための仏教教義の適用可能性に関する分析調査」したことは、他に類をみないものである。

また、仏教ソーシャルワーク(仏教社会福祉、あるいは仏教福祉と呼んだとしても)、その研究、教育、実践はこれまでは大乘仏教の伝わった諸国とくに日本、臺灣、韓国などの東アジアでは行われてきた。

そして、本論文が取り組んだものと同様な趣旨であった。大乘仏教圏では各宗派の正依の経典や特定の経典においてのみの試みは存在しても、大乘仏教経典全体を視野にして網羅した分析調査はないはずである。

したがって、これまで誰も行っていない本論文のような膨大な仏教経典を渉猟網羅した分析調査は寡聞にして知らない。本論文で用いられた分析調査手法は、大乘仏教圏にも大きな刺激を与えるものになるであろう。

本博士論文は、上座部仏教の世界では聖典の一つとして知られる経蔵(Sutta Pitaka)の中に、現代における仏教ソーシャルワーク実践のキーコンセプトが内蔵されていることを実証することが主題となっている。

その内容は、大きく分ければ、①学術的な実証に向う前の周辺問題の整理(学術的意義や用語の定義等)(Chapter 1)、②研究の理論上および分析的枠組み(Chapter 2+3)、③経蔵(Sutta Pitaka)の文献的分析(Chapter 4: Section1-5)、④まとめ(Chapter 5)という構成となっている。

すべての章において、提示された研究目的を支持するように順序立てられている。提起された研究課題に対して、哲学的かつ実践的に適切な学術的回答が提供されている。一般的に使われている「ソーシャルサービス」や「ボランティア活動」及び「専門職としてのソーシャルワーク」といった用語の違いが明確に示されている。このプロジェクトの目的を達成するために、研究者は一貫して論証している。すべての章は相互に関連している。仏教ソーシャルワークを構築し強化することに関連する初期仏教の教えの主要な概念もよく示されており、現代の教育学と実践におけるその有用性も十分に議論されている。

導き出された結論は論理的なものである。これらの概念を実際の文脈で適用する際の複雑さについても議論されている。興味深いことに、研究者は個人及び社会そして政策立案のレベルでの実践可能性を提示している。経典(suttas)や現代の仏教社会から示されたケーススタディは、非常に適切なものである。研究論文に使われている図やチャートが、プロジェクトにさらなる精彩を添えている。また、示された社会の様々な文脈において、初期仏教の教えを専門的ソーシャルワークに応用するための提言も行っている。

中間審査でも評価したとおりであるが、本論文は、「仏教ソーシャルワーク論」を理論づける意味で、たいへん興味深く独創性に満ちた研究成果として判断できる。

本研究の「論理構成」を説明すると、世界的に共通認識化されている『ソーシャルワークのグローバル定義(2014年7月)』(IASSW(国際ソーシャルワーク教育学校連盟)総会及びIFSW(国際ソーシャルワーカー連盟総会で承認)の「理念」「哲学」の一

部が、上座部仏教（小乗仏教）の経典である「経蔵(Sutta Pitaka)」にも見出せることを証明したものである。

それによって仏教徒が多いスリランカにおいては、既に「ソーシャルワーク」の「理念」「哲学」が、西洋文化が流入する以前から存在しており、現在、類似した活動・教育などが実施されていることを立証した優れた論文である。

長年、「ソーシャルワーク」の「理念」「哲学」がスリランカ社会には浸透しにくいと評価されてきたが、本研究で「ソーシャルワーク」と「経典」とを深く分析することで、これらの類似点が多く見出され、既にスリランカの生活・慣習の中にソーシャルワークが芽生えていることが明確化された。また「仏教ソーシャルワーク教育開発のための仏教教義の適用可能性」を論ずる際に、基本的教科書的な典故資料論文として今後の研究と教育現場において、多大な影響を与えるものとして評価できる論文である。

最後に論理構成、引用文献などの研究手法も妥当・的確であり、新たな知見が見出されているため、論文博士における最終審査結果は「合格」と評価できる。

#### 4. 論文審査及び最終試験の結果

本審査委員会は、令和3年9月から令和4年3月まで、6ヵ月余にわたり、オマルペ・ソマナンダ師（スリランカ）の論文提出による博士学位請求論文の、その妥当性及びその可否について、また、論文内容について審査を行ない、令和4年2月24日に、口述試問による論文内容の最終審査及び最終試験を実施した。

更に、同年3月10日には、淑徳大学大学院総合福祉研究科主催による公開審査会が行なわれ、オマルペ・ソマナンダ師（スリランカ）の論文提出による博士学位請求論文が審査された。本審査委員会は、以上の審査及び口述試問と公開審査会におけるオマルペ・ソマナンダ師（スリランカ）の成績を基に、同氏の論文提出による博士学位請求論文を「合格」とした。

#### 5. 学位授与の可否についての意見

以上、審査の結果、本審査委員会は、令和4年3月10日の最終審査委員会において、オマルペ・ソマナンダ師（スリランカ）に博士（社会福祉学）の学位を授与することを「可」と認めた。

以上